

おいしい



『世界の納豆をめぐる探検』

高野秀行/文・写真
スラック/絵
福音館書店



納豆がいろいろな国で食べられていることを知っていますか？ミャンマーの「トナオ」やネパールの「キネマ」など、日本とはちょっとちがう食べ方から、新しいはっけんがあるかもしれません。



『チョコレートの王さま』

マイケル・レーベンサル/文
ラウラ・カラン/絵
宮坂宏美/訳
あかつき教育図書

バンジャマンのおじいちゃんは、とてもおいしいホットチョコレートを作るので「チョコレートの王さま」とよばれています。バンジャマンもおじいちゃんのようにになりたいのですが、手つだわせてもらえません。



『たい焼き総選挙』

新井けいこ/作
いちろう/絵
あかね書房

たい焼きが大きな拓都。ある日、たい焼き屋のおばあちゃんがぎっくりごしになってしまい、店をお休みすると知る。拓都はクラスのみんなとっしょに、何か力になれることはないかとアイデアを出し合う。

どうぶつ



『トイプードルのプリンセス? 犬を飼ったら、大さわぎ! 1』

トイ・T.ザ・ランド/作
相良倫子/訳
徳間書店

犬を飼うなら、プリンセスみたいな犬がほしい。ロージーはそう考えていました。そして、ついにねがんの子犬がおうちにやってきました。ところが、その子犬はそうぞうとはちがいました。



『動物の義足やさん』

沢田俊子/文
講談社

しまだ島田さんは、動物のための義足などを作っています。作った数はなんと3万びき分!それぞれの動物に合わせるために、どのようなくふうをしてきたのでしょうか。



『ゴロゴロ ヤマネコ不動産 なんだかあやしいおすすめ物件』

藤重七加/作
樋口和/画
福音館書店

自分の店をもちたいばくに、ヤマネコ不動産から「ぴったりのお店があります。家賃は、格安! (ただし条件あり)」という手紙がとどいた。あやしければ気になって、店を見に行くことにした。



足立区立図書館

本の世界は楽しいよ!

としょかんにはワクワクドキドキする本がたくさんあります。いろいろな本を手にとって、自分に合う本をさがしてみよう。

楽しい

『おなじところちがうところ』

新井洋行/作
嶽まいこ/絵
くもん出版



わたしとときは同じサッカークラブ。でも、いいんかいはちがいます。また、おねえちゃんとわたしはよくわらいますが、おねえちゃんはこわいのがにがてで、わたしはへっちら。人は同じところも、ちがうところもあるから楽しいね!



→ あだち電子図書館で読める本



→ 読みやすい本

© Yo & Motoko

発行 足立区立中央図書館
TEL 03-5813-3740



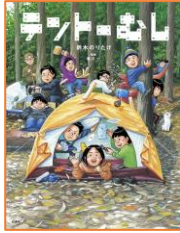
図書館HP

あだち電子図書館
くわしくはコチラ





しぜん



『テントーむし』

鈴木のりたけ/著
寒川一/監修
白泉社

テントってどうやってはるの?ごはんのじゅんぴはどうしたらいい?キャンプのたつじんに教わりながら、はじめてのキャンプがスタート!みんなできょうりょくして、キャンプを楽しもう。



『深海魚に会える海』 日本でいちばん深い海と そこにくらす生き物のひみつ』

堀口和重/写真・文
フレーベル館

しずおかけん するがわん おせざき
静岡県の駿河湾にある大瀬崎の海。ここでは、見られたらラッキーといわれるリュウグウノツカイという深海魚がいます。なぜ大瀬崎は深海ではないのに、リュウグウノツカイを見ることができるのでしょうか。

考える



『アゲインアゲイン』

おおぎやなぎちか/作
坂口友佳子/絵
あかね書房

あまね
亜麻音はミュージカルのオーディションにおちたショックから立ち直れずにいた。何もかも親にきめられてしまうのがいやになり、ずっと学校に来ていないマリナの家になげこむ。



『漢字なりたち絵本』

谷山彩子/作
あすなろ書房

みなさんがつかっている漢字は、じつはもともと絵だったことを知っていますか?たとえば「日」はおひさまの形からできています。ほかには、どのようなものがあるのでしょうか。

ふしぎ



『ハロウィーンまで、 まってなさい』

ミリアム・ヤング/作
小宮由/訳
平澤朋子/絵
岩波書店

おもちゃ屋さんで売られているかざりのまじよたち。りゆうをつけられてなかなか買ってもらえません。とうとうハロウィーンの夜、まじよたちはおきやくさんのところへいたずらしにでかけました。



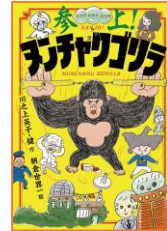
『おはなしは どこからきたの?』 南アフリカのむかしばなし』

さくまゆみこ/文
保立葉菜/絵
BL出版



むかしアフリカの村に、マンザンダバという女の人がいました。夜、子どもにお話をねだられましたが、ひとつも思いうかびません。そこでマンザンダバは、お話をさがすたびに出ることにしました。

学校



『参上! ムンチャクゴリラ』

川之上英子・川之上健/作
朝倉世界一/絵
岩崎書店

お父さんがゴリラになっちゃった!ようじろうがさぐぐとみると、うちゅうじんが、人間たちをぜんぶゴリラにしようとしていたのだ。どうしてそんなことを考えたのだろう。なんとしてでも止めなくちゃ。



『ぼくが子どものころ 戦争があった』 「いくさの少年期」より』

田中幹夫/原作
寮美千子/文
真野正美/絵
ロリン社

戦争をしていたころ、たんにんの先生は「大日本帝國は、絶対に勝ちます」と言いました。ところが、くらしはどんどんわるくなっていきます。6年生になった時、新しい先生がやってきました。

※大日本帝國…その時の日本のよび名

はたらく



『海辺の村のパン屋』

ポー・ボト/作
いけださちこ/訳
BL出版



海のそばにあるぼくの村では、海はみんなの生活の中心だ。だから、ぼくは大きくなったら魚をとるりょうしになりたい。だけど、父さんはどうしてパン屋になったんだろう。



『行ってみよう! 首都圏外郭放水路』

ほるぷ出版

かすかべし しゅとけんがいかくほうすいろ
春日部市の地下にある「首都圏外郭放水路」は、大雨から町をまもるために作られました。どんなせつびがあって、どのようなしくみで町をまもっているのでしょうか。

かぞく



『のうじょうのいえ』

ソフィー・ブ・ラッコル/さく
山口文生/やく
評論社



アメリカの町にあるいっけんの家。この家ではかつて、12人の子どもたちが生まれそだちました。子どもたちはいったいどんな風にすごしていたのでしょうか。これは本当のお話です。



『おじいちゃんの目 ぼくの目』

パトリア・マクラン/作
若林千鶴/訳
黒井健/絵
リブル



ぼくはおじいちゃんの家が1番のお気に入り。それは、目が見えないけれどおじいちゃんだけのやり方で家の中を見ているから。ぼくもいっしょに目をとじてやってみると、いろいろなことに気がつくんだよ。